

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 金香淑

本論文「朝鮮神話の源流——「バリ公主神話」と「ダンクン神話」を巡って——」は、民間の巫俗のなかに伝えられてきた口伝の神話のうち最も代表的な「バリ公主神話」と、中世の文献『三国遺事』に記された「ダンクン神話」とを取り上げて、朝鮮における神話がどうとらえられるべきかということを考察したものである。従来の研究が、両者にきわめて濃厚に見られる仏教的要素を後から付加されたものとして、これを排除して「原型」を考え、民族の神話をもとめようとしてきたことに対して、本論文は、仏教的要素を、本質にかかわるものとしてとらえ、根本的に異なる見地を提起するものである。朝鮮神話の把握の本質に関する考究として、本論文の意義は大きい。

本論文は、序章「朝鮮神話研究の諸問題」、第一章「「バリ公主神話」研究：口伝神話に見られる仏教的要素と神の神聖性」、第二章「「ダンクン神話」研究：文献神話における「帝釈」とその世界像」、第三章「朝鮮神話の成立と仏教」の四章から成る。序章で研究史を批判的に振り返り、第一、二章では神話テキストの検証を通じて、その立場を具体化し、第三章において方法的問題として結論付けるという構成である。

序章では、中世の文献にあらわれたものや、近代に採集された巫俗の伝承から、朝鮮神話の「原型」をもとめてきた研究史が、批判的に振り返られる。その「原型」のもとめかたは、テキストに見られる仏教的要素を「潤色」とし、それ以前の固有のありようを探ることを無条件の前提とするものであった。そこでは、テキスト理解自体は問われることがあまりにもすくなかったことが批判される。

それに対して、本論文は、テキスト理解から出発する。テキスト理解を経ることによって、口伝であれ、文献であれ、神話的物語が、仏教的世界像によってはじめてかたちづけられたということがとらえだされるのである。

第一章では、巫俗の伝承する口伝神話のうち、「バリ公主神話」を取り上げるが、多くの異伝を見合わせるという手続きをとりながらすすめられる（そのために、採集された複数の異伝を日本語訳し、本論文に先立って『朝鮮の口伝神話 「バリ公主神話」集』〈和泉書院、1998年〉を刊行した、その労は特筆される）。そのテキスト読解を通じて、遺棄された末娘が、死にかけた両親のためにさまざまな苦難を経て蘇生薬を入手するという話の、基本的な世界像は「十王経」によっていることがあきらかにされた。仏教的要素は、「潤色」

というレベルの問題ではなく、物語を成り立たせる、あるいは物語を可能にしている、枠組みの問題ととらえるべきことが明確にされたのである。巫俗原理を読み取ってきた従来の研究は、ここで根本から見直しが要求されることとなった。

第二章では、『三国遺事』の「ダンクン神話」を検討する。天から降った桓雄が熊女と交わって生んだ子が壇君であり、朝鮮を建国したという、よく知られた話である。朝鮮民族の最古の建国神話と考えられてきたものであるが、そこには「帝釈」（桓雄の父桓因はすなわち「帝釈」だという）が主宰神として登場し、世界像という点でも、地上仏国土として新羅をえがき、その世界が仏法の守護神である「帝釈」に保障されるものとしてあるのであって、仏教的世界像が機軸となる。それがテキストに即して読み取られるべきだということを確認したのであり、ここでも従来の研究の根本的な見直しを要求するのである。

こうして、口伝神話も文献神話も仏教によって成り立ったととらえることを経て、第三章は、朝鮮神話の起源についての従来の研究の根本的な転換をもとめる。こうした神話に固有の民族文化の原型をもとめてきたことから離れるべきだというのであり、朝鮮神話研究の基本問題にいたるのである。

テキスト理解を通じて提起されるものとして、本論文の示すところは説得的である。また、テキスト理解抜きに原型をもとめ、「神話」を作り出してきたともいえる、朝鮮神話論の虚構を衝き、方法の本質をえぐるものとしてきわめて刺激的である。今後の朝鮮神話研究に多大な問題を投げかけることが期待される。論述はほぼすべてが朝鮮神話の分析に費やされるが、日本における現在の神話研究を学んだことから得たものによって本論文はなされたのであり、比較研究の成果として評価される。

ただ、仏教ということに関して、朝鮮中世における仏教の把握が不十分であり、「十王経」を受容したことと道教とのかかわり等について究明する必要があること、また、韓国の研究史の分析が一面的に過ぎることなどが、本論文の弱点として審査委員から指摘された。しかし、そうした欠点は今後の研鑽によって補われうるものであり、本論文の価値を損なうものではないということが委員の一致した評価であった。

したがって、本審査委員会は博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。